

通常登校 再開にあたって

校長 永山 俊 介

2ヶ月に及ぶ休校期間と約1ヶ月の分散登校期間を終えて、ようやく通常登校がはじまりました。友達や先生と会える喜び、みんなと一緒に学習ができる一体感、それらの感覚が少しずつ戻ってくることを願います。

こんな状況下ですが、令和2年度から、新学習指導要領の全面実施となりました。学校教育の重点が「何を教えるか」から「何ができるようになるか」に大きく転換することになります。それは、「教える」教師主体から、「何を学ぶか」「何をどのように学ぶか」という「学ぶ」子ども主体への転換となります。



「学び方」には、大きく分けて2つあります。1つは独学で学ぶ。一方は、人と関わりながら学ぶ。とりわけ学校では、子どもたちが学ぶべく大切なことのひとつ、社会性については、人との関わり無しには学べません。係活動や部活動、運動会や校外学習、修学旅行などの様々な取り組みを通して、失敗や工夫、成功体験をしながら成長し、人との関わりの中で子どもたちの「学び」は、醸成していきます。今年度はこのコロナ禍の影響では、残念ながら縮小したり、中止せざるを得なかったりする教育活動がいくつもあります。しかし、コロナ禍を異なる視点で見ると、この状況の中で「何を学び、どのように学ぶか」を創造するチャンスだと捉えることができると考えます。「学んだことをどう活かすか」は、これからの「新しい生活様式」の中で活かせるスキルとなります。

また、夏休みや冬休みなど、例年より短くなります。子どもの自主性や感性を育む自由研究や図画工作、また読書感想文などの課題学習も取り組みの工夫が必要です。学校の教育活動を本格的に再開していくにあたっては、「学校の新しい生活様式」を踏まえ、児童や教職員の感染及び感染拡大のリスクを可能な限り低減しながら、子どもたちの健やかな学びを保障していきたいと考えています。「例年通り」は通用しません。子どもを主役に、新たな取り組みへの挑戦と工夫を行っていきます。保護者の皆様、そして地域の皆様、どうぞ力をお貸し下さい。

よろしくお願い致します。